PRESS RELEASE

泉屋博古館東京（東京・六本木）
2025年展覧会スケジュール

いつも大変お世話になり感謝申し上げます。
2025年はプレスリリースに掲載の展覧会を開催いたします。
何卒宜しくお願いいたします。

泉屋博古館東京
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

Schedule 2025
TOKYO

1 January
2 February
3 March
4 April
5 May
6 June
7 July
8 August
9 September
10 October
11 November
12 December

花器のある風景
ライトアップ木島櫻谷Ⅱ
中国古代の神話とデザイン
現代マイセンの磁器芸術
もてなす美

企画展

花器のある風景

＊同時開催：受贈記念「大郷理明コレクションの花器」

2025年 1月25日（土）— 3月16日（日）

日本における花器の歴史は、中国より寺院における荘厳の道具として伝来したのがはじまりとされます。室町時代には連歌や茶会、生花など室内芸能がさかんになり、中国から輸入された唐物と称される書画、調度類や茶道具、文房具を座敷に並び立てる「座敷飾り」などが発展しました。床の間にはさまざまな道具が飾られる専用の空間が備えられ、飾り付けに唐物の花生などが飾られました。唐物の金属製の花器をもとに、日本でも中世以降、陶磁器や竹など様々な素材で花入が作られ、日本独自の美意識が誕生します。江戸期を代表する茶人、小堀遠州や松平不昧の手による竹花入など、個性豊かな花器が集います。本展では、住友コレクションから花器と、花器が描かれた絵画などを紹介します。同時開催として、華道家・大郷理明氏よりご寄贈頂いた花器コレクションを紹介します。

おもな作品

《古銅象耳花入 銘 キネナリ》　元時代・14世紀　泉屋博古館東京
原在中・在明《春花図》　江戸時代後期・19世紀　泉屋博古館

企画展

ライトアップ木島櫻谷Ⅱ

— おうこくの線をさがしに 併設四季連作屏風

＊同時開催：特集展示
「住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に2025」

2025年 4月5日（土）— 5月18日（日）

大正中期に大阪天王寺の茶臼山に建築された住友家本邸を飾るために描かれた木島櫻谷の「四季連作屏風」を全点公開し、櫻谷の絵画表現の特質をライトアップする展覧会シリーズの2回目。今回は、特に人物画にスポットをあて櫻谷の線描の質をさぐるとともに、写生帖を増量して展示し、写生とタイアップした本画を紹介します。併せて、公益財団法人住友財団が推進してきた文化財維持・修復事業助成により甦った作品を展示し、文化財修復の最前線を紹介します。

おもな作品

木島櫻谷《唐美人》　大正時代・20世紀
泉屋博古館東京
木島櫻谷《秋草図》　大正12年（1923）
泉屋博古館東京

企画展

中国古代の神話とデザイン（仮）

2025年 6月7日（土）— 7月27日（日）

中国古代に生みだされた文様やモチーフの数々は、卓越したデザイン性を示すだけでなく、当時の人々の豊かなイマジネーションと、それを背後から支えていた神話世界や死生観を現代のわたしたちに伝えています。本展覧会は、住友コレクションの青銅鏡を中心に、その世界観をわかりやすくご紹介するとともに、西王母や七夕の伝説を切り口として、日本の文化や美術に与えた影響についても掘り下げていきます。

おもな作品

重要文化財《画文帯同向式神獣鏡》
後漢末〜三国・3世紀　泉屋博古館
《鴟鴞尊（しきょうそん）》　殷後期・前13-前12世紀
泉屋博古館

泉屋博古館東京
SEN-OKU HAKUKOKAN TOKYO MUSEUM

特別展

現代マイセンの磁器芸術

―巨匠ハインツ・ヴェルナーの描いた物語（メルヘン）―（仮）

2025年 8月30日（土）― 11月3日（月・祝）

（巡回：2026年度以降、全国3～4会場巡回予定）

ヨーロッパを代表する名窯、マイセンは、王立磁器製作所として、18世紀にドイツにて創業し、ヨーロッパ初の磁器焼成に成功しました。マイセンは現在まで多くの名品を世に送り出してきました。

日本においては初期のマイセン製品が特に人気を集めてきましたが、実は1960年頃からのいわゆる「現代マイセン」にも知られざる優れた製品が数多く存在しています。マイセンの培った高度な磁器作りの技術と、成型・デザイン・人形制作などの芸術家グループの豊かな才能が合わさり生み出された磁器は、極めて質が高く、まさに“磁器芸術”と言えるものです。

本展では《アラビアンナイト》《サマーナイト》《ほら吹き男爵》などの現代マイセンを代表する物語（メルヘン）シリーズを生み出した巨匠ハインツ・ヴェルナー（1928-2019）の名作を中心に、現代マイセンの美しき磁器芸術を紹介します。ハインツ・ヴェルナーの夢あふれるデザインと美しい絵付けの世界をお楽しみください。

（巡回あり）

おもな作品

マイセン《アラビアンナイト》コーヒーサービス　1986年頃　装飾 ハインツ・ヴェルナー　器形 ルードヴィッヒ・ツェブナー（オリジナルデザイン 1967年）　個人蔵

マイセン《サマーナイト》ティーサービス　1974年　装飾 ハインツ・ヴェルナー　器形 ルードヴィッヒ・ツェブナー（オリジナルデザイン 1969年）個人蔵

企画展

もてなす美 ―能と茶のつどい

2025年11月22日(土)―12月21日(日)

住友家歴代の当主たちは、教養として能楽や茶の湯などをたしなむとともに、自ら能や茶の会を主催し客人をもてなすことで、さまざまな交流関係を築いてきました。本展では、そうしたもてなしの場で用いるために集められた、能や茶にまつわるコレクションを紹介します。能関係の諸道具は、多くが15代当主・住友吉左衛門友純(号・春翠)により集められたもので、そのコレクション形成には、能楽師・大西亮太郎が大きく寄与しました。また、大西は春翠の能の師であるばかりでなく、茶の湯の友としての顔も持ち、大正期に春翠が催した茶会に、大西はしばしば参加しています。残された茶会記には、その折々に用いられた道具類が記録されており、茶会を主催した春翠の美意識をうかがい知ることが出来ます。

おもな作品

《紅白萌黄段青海波笹梅枝垂桜模様唐織》　江戸時代・18世紀　泉屋博古館東京
原羊遊斎《椿蒔絵棗》　江戸時代後期・19世紀　泉屋博古館東京

information

泉屋博古館東京(せんおくはくこかんとうきょう) SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

住　所　〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1
ＴＥＬ　050-5541-8600(ハローダイヤル)

入館料　一 般　企画展1,200円(1,000円)
　　特別展1,500円(1,300円)
　　学 生　企画展600円(500円)
　　特別展800円(700円)
※18歳以下のかたは証明書ご呈示にて無料
※20名様以上の団体のかたは(　)内の割引料金
※障がい者手帳等ご呈示のかたはご本人および同伴者一名まで無料
※展覧会により料金が変更になることがあります

時　間　11:00－18:00(入館は17:30まで)
※金曜日は19:00まで(入館は18:30まで)

休館日　月曜日(祝日の場合は翌平日)、展示替え期間中、年末年始

ＵＲＬ　https://sen-oku.or.jp/tokyo/

ＳＮＳ　𝕏:@SenOkuTokyo
Facebook:@SenOkuHakukoKanTokyo
Instagram:@senokuhakukokanmuseum_tokyo

《お問い合わせ先》泉屋博古館東京　(広報担当 橋本旦子)
TEL: 03-3584-8136　FAX: 03-3584-8137　E-mail : pr-tokyo@sen-oku.or.jp

提供可能画像・キャプション一覧

泉屋博古館東京
SEN-OKU HAKUKOKAN TOKYO MUSEUM

企画展　花器のある風景

原在中・在明《春花図》
江戸時代後期・19世紀
泉屋博古館

《古銅象耳花入 銘 キネナリ》
元時代・14世紀
泉屋博古館東京

企画展　もてなす美

《紅白萌黄段青海波笹梅枝垂桜模様唐織》江戸時代・18世紀
泉屋博古館東京

原羊遊斎《椿蒔絵棗》
江戸時代後期・19世紀
泉屋博古館東京

企画展　ライトアップ木島櫻谷II

木島櫻谷《唐美人》
大正時代・20世紀
泉屋博古館東京

木島櫻谷《秋草図》　大正12年（1923）　泉屋博古館東京

企画展　中国古代の神話とデザイン（仮）

《鴟鴞尊（しきょうそん）》
殷後期・前13-前12世紀
泉屋博古館

《方角規矩四神鏡》　前漢末・前1世紀
泉屋博古館

重要文化財《画文帯同向式神獣鏡》
後漢末～三国・3世紀　泉屋博古館

特別展　現代マイセンの磁器芸術

マイセン《アラビアンナイト》コーヒーサービス
1986年頃　装飾 ハインツ・ヴェルナー
器形 ルードヴィッヒ・ツェブナー
（オリジナルデザイン 1967年）　個人蔵

マイセン《アラビアンナイト》コーヒーサービス（部分）　1986年頃
装飾 ハインツ・ヴェルナー
器形 ルードヴィッヒ・ツェブナー
（オリジナルデザイン 1967年）　個人蔵

マイセン《サマーナイト》ティーサービス（部分）
1974年　装飾 ハインツ・ヴェルナー
器形 ルードヴィッヒ・ツェブナー
（オリジナルデザイン 1969年）　個人蔵

《お問い合わせ先》泉屋博古館東京　（広報担当 橋本旦子）　TEL: 03-3584-8136　FAX: 03-3584-8137　E-mail : pr-tokyo@sen-oku.or.jp